

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛信芳主会	代表者	塚本恵里香	法人・事業所の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する
事業所名	丘の上倶楽部片倉	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①「事業所自己評価」と「総括表」の改善計画について、年度中間点で再確認を行う。	取り組むことが出来なかった計画もあった。	常勤職員の数について確認 正職員 2名と技能実習生 1名 他の職員は非常勤 数年間に渡って継続している案件もある	○「事業所自己評価」と「総括表」について、職員会議にて毎月点検を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	①玄関などに看板やポスターなどを設置して、気軽に訪問してもらえるような工夫をする。 ②感染症対策を継続しながら、快適で安全な環境を提供する。	事業所への入り易さについては、構造上、自由に入出入りする事は出来ない。	環境については取り組むことが出来ている。 玄関など入り口に看板等を設置する事は出来ていない。	○事業所の案内を設置して、相談や問い合わせをし易くする。移動式の看板を設置する。
C. 事業所と地域のかかわり	①ホームページを活用して、情報発信を進める。 ②感染症対策を実施した上で、様々な活動への参加再開を進める。	地域の方への認知は低い 玄関など建物の構造もあり、相談に訪れるには入りにくい	ホームページの作成は出来ていない。 地域の活動も再開出来ない物が多く、様々な活動への参加を行う事は出来なかった	○移動式看板を設置し、介護などの相談窓口としての案内を掲示する。 ○感染症予防を継続し、地域での活動を拡大する。再開されるイベントなどあれば参加をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①本人や家族の意向を確認し、感染症予防対策を実施しながら、地域での活動をサポートする。	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた話し合いは行っていない 利用者以外の心配な方についての情報は入って来ない。	利用者が各地域で行事等に参加する事はほとんど無い。	○移動式看板を設置し、介護などの相談窓口としての案内を掲示する。 ○感染症予防を継続し、地域での活動を拡大する。再開されるイベントなどあれば参加をする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①感染症対策を実施した上で様々な活動を継続出来るようにする。今までとは違う方法での実施を取り入れる。	地域での取組みについては、感染症予防もありなかなか進まなかった。	今年度は、書面開催が2回、その他は集合形式で行う事が出来た。 家族などの参加を増やす事が出来なかった。	○参加者を増やす 利用者 利用者家族 ○運営推進会議にて少なくとも1件は個別ケースなどの点検を行う
F. 事業所の防災・災害対策	①防災計画を職員会議にて回覧し、全員に目を通してもらう。	防災計画の周知を行え無かった 地域の住民参加型防災訓練は無かった 防災訓練への参加を促さなかった	地域の防災訓練は無く、事業所の訓練についての案内も行わなかった	○防災計画を運営推進会議時に配布閲覧してもらう。 ○地域で行われる防災訓練等の情報を収集し、可能な場合は参加する。 ○運営推進会議委員へ防災訓練への参加を案内する。